

## 第 9 回 小中一貫教育校検証部会 会議要録

開催日時	平成 27 年 2 月 17 日（火） 午前 10 時～12 時	
会 場	小中一貫教育校大泉桜学園	
出席者	委 員	酒井朗 近藤みちよ 金子靖子 小澤久美子 玉井弘子 西村貴 富岡弘美 木下川肇 田頭裕 池田和彦 勝亦章行
	協力委員	伊藤秀樹
	事務局	統括指導主事、新しい学校づくり担当課
傍聴者	なし	
案 件	( 1 ) 前回議事録について ( 2 ) 学校評価を活用した検証について ( 3 ) 学力向上を図るための調査（都）の結果について ( 4 ) 検証のまとめの構成案について ( 5 ) その他 ア ねりま小中一貫教育フォーラムについて イ 中央教育審議会答申について ウ 平成 27 年度入学案内	

### 1 開会

#### 部会長

第 9 回練馬区小中一貫教育推進会議小中一貫教育校検証部会を開会いたします。

### 3 案件

#### ( 1 ) 前回議事録について

#### 部会長

案件に先立ちまして前回の議事録について事務局から説明をお願いいたします。

#### 事務局

( 説明 )

#### 部会長

お気付きの点がございましたら、後日事務局のほうにお知らせください。

#### ( 2 ) 学校評価を活用した検証について

#### 部会長

資料の説明を事務局からお願いします。

#### 事務局

(説明)

#### 部会長

いろいろな資料が入っています。少し紹介しますと、2ページをごらんください。これは「学校に楽しく通っていますか」という、学校に対する全般的な気持ちを子どもたちに聞いたものです。一番上が平成24年度で、真ん中の帯グラフが25年度、一番下が26年度になります。一番左側の斜線になっているところが「とてもそう思う」と答えた子どもたちで、その次の点々のところが「そう思う」というところになります。この2つが肯定的な回答です。それをごらんいただくと、斜線の部分が非常に伸びているということがわかります。特に8年生、9年生は、24年度には小学校、中学校別々だったことから、一貫校に変わって違和感を感じる部分もあったかと思いますが、今年になりますと非常に楽しく通っているという子どもたちが増えていきます。7割近くが「とてもそう思う」と答えていますし、「そう思う」という子どもたちを含めると、9割以上になります。これが象徴しているのですが、7年生、8年生、9年生が全体的に、どの項目でも非常に肯定的な回答をしているというのが今回の結果になります。

お気付きの点がありましたらご意見いただきたいと思います。

#### 協力委員

気になったのは、「学校に楽しく通っている」「授業はすすんで参加している」「先生は丁寧な言葉遣いや場に応じた服装に気を付けている」「担任の先生や相談室の先生は、悩みの相談を熱心に聞いてくれると思う」というところで、すごく肯定的な9年生の回答が増えているのですが、今年の9年生には何か特徴的なことがあるのでしょうか。

#### 委員

肯定的になってきたというのは多分、学校によやく慣れてきたということだと思います。この学校は6年生になって急に西校舎で学習することになった学年です。本来でしたら小学校の最上級生を経験するべき学年のときに中間層になってしまったので、ほかの学年よりも責任感がないというか、一番上になった感覚がないままに7年生、8年生と経験してくるうちに、よやく自分たちの出番ということで、学校に対して何か自分たちができることはないかと意識が変わってきたのだと思います。もともと穏やかな学年でしたので、すんなり受け止められたのかなと思います。もし、もっと自分たちにも何かさせろという感じの学年だと、もうちょっと否定的に推移するかなと思うのですが、素直な学年でしたので、あ、こういう学校になっていくのだなということを自分たちなりに理解して、学校を何とかいい方向に動かしていこうという気持ちから先生とも密になっていったと思うのです。

#### 委員

ただいまのご発言を聞いて、なるほどと感じ入っています。そういう要素はあると思います。今の9年生は6年生のときが開校の初年度でしたから、残念ながら小中一貫教育という新しい試みとは違うスタートしていますので、私たちがよかれと思ってやっていることが子どもたちにとっては劇的な変化なわけです。それを100%受け止められないで、よく意味がわからないと言っていたのですが、4年間たって慣れてきたというか、学校のいいところを理解できるようになりました。もちろん9年生ですから、いいところだけではなくて課題もつかんでいるでしょうけれども。

保護者ならではの温かい視点でそういうふうに分かるのだなと思って聞いておりました。

#### 委員

9年生のそういう雰囲気に関心を持って、8年生にもかなり肯定的な回答が増えているのかなと思いました、

#### 委員

補足ですが、9年生は、本校の特色の目玉である大泉桜の里の稲作は経験していません。私は本校の活動について説明をするときに「稲作を校内でやっています。収穫祭としておにぎりパーティをやっています。そういう一連の活動の中で命の教育をやっています」と言っていますが、大変申しわけないと思うのですが、9年生はその経験がありません。ほかにもそういう要素はあるということ踏まえて考えていかなければいけないなと思っています。逆に言えば、そういう要素もある分、新しい試みの経験をしてもらっているところもあります。

#### 部会長

学校が大きく変わって経験が随分変わってくる中で、子どもたちは自分なりに9年生としての自覚というか、学校に対して前向きにいろいろなことに頑張っていこうという気持ちがあらわれていると思いました。

ほかにはいかがでしょうか。

#### 委員

生活やいろいろな行事等について、子どもたちの気持ちが上昇しているということはよくわかるのですが、例えば6番や7番を見ると、7・8・9年生の意欲は増大しているものの、例えば24年度に4年生だった子どもたちが25年度には5年生、26年度には6年生になっていると思って見ますと、満足度合いが若干減っていき、「全く思わない」「わからない」「あまり思わない」という比率がちょっと高まっていることが少し気になっています。本来であれば、特に学習についての満足要因がアップしてほしいと保護者としては思うのですが、そこがだんだんとやや下降していて、逆に不満要因のところ若干増えていることに、これはどうしてか、何か原因があったのかと気になりました。生活全般的には非常にモチベーションが上がっている感じはしますが、逆にアップ率を見ると、学習意欲のところ少し気になりました。

#### 部会長

24年度の4年生は25年度の5年生で、26年度は6年生になるということで見えていきますと若干、肯定的な回答が減っている学年もあります。今の学年がそうです。その学習面での課題がまだ散見されるということだと思います。

#### 事務局

この分析については、学校での分析も含めてこの委員会で考えていく必要があると思いますので、ぜひご感想やご意見をお願いしたいと思います。

#### 委員

保護者としてはちょっと心配だなという感想をもちます。

#### 事務局

学校評価は、これまで学校が公表しているものを単年度ごとに見ていただいていたと思いますが、この委員会では、こうやって経年で同じ質問を比較しながら、また精査をして検証のまとめにつなげていきたいと思えます。

### (3) 学力向上を図るための調査(都)の結果について

#### 部会長

次の案件に移りたいと思えます。学力向上を図るための調査(都)の結果についてということで、資料2をごらんください。事務局から説明をお願いいたします。

#### 事務局

(説明)

#### 部会長

区や都、国、いろいろな主体が学力調査をしています、それらを集めて年度で並べてみたのが、この資料です。感想や質問がありましたらお願いします。

1ページで説明しますと、国語については平成23年度から26年度の国語の相対的な点数が載っています。23年度の区と書いてあるのは区が実施した調査ですが、都全体で集計があるのですか。

#### 事務局

平成23年度の調査は民間事業者が実施する学力調査を活用して実施したものです。都平均の欄については、当該事業者が実施した学力調査を活用した自治体の全国平均の値を記載しています。

#### 部会長

全国平均値を100としたときに102だから、2%ちょっと良かったという数字になります。

25年度は都の調査結果になります。26年度は国が実施した調査で、現在、A問題とB問題に分かれていて、A問題が基礎・基本の調査です。そのほかの都や区の調査も基礎・基本を重視した調査になっていると思えますので、それと一緒に並べてあります。B問題は活用力という言葉を使っていますが、応用問題として、かなり独自の問題ですので、別途26年度のみだけ記載しています。

#### 委員

この学力調査の結果が平均点よりも上か下かとかということで一喜一憂するものではありません。本校の児童・生徒がどういう問題で誤答をしているのか、それについて授業の質等が十分対応できているかどうか、当然そこまで見ないといけないので、そのように活用しています。

この学力テストは以前からそういう手順で活用しているのですが、小中一貫で小学校、中学校の職員室が1つですので、9年間を見通した活用の研究は既に始めていて、その発表を27年度の秋に実施したいと思っています。

子どもたちがつまずきやすい要素はいろいろあります。そのつまずきやすい要素やつまずきやすい単元で、なぜつまずくのかということを見て、学習が定着するように、通常よりも1.5倍から2倍の時間をかけて丁寧に教えるような体制をとるとか、単純にステップアップが難し

くなってくる問題だからもう少し指導方法を変えてやっていかないといけないとか、そういう研究を去年からずっと進めていて、今年から2年間かけて、本格的に小中一貫校の9年間の中で見ながら、より学習をわかりやすくしていく授業改善の研究を進めています。

この学力テストの中で気になったのは、資料には数値しか記載されていないのですが、B問題では誤答というよりは白紙が目立つことです。それは本校だけの傾向か、それとも一般的に他の学校でも似たような傾向があるのかは分かりませんが、誤答というよりは、恐らく設問を読み込んでいくのが面倒だからこれはもう答えない、という感じが傾向としてあるかなと私たちは分析しています。これは学校だけの問題ではなくて、丁寧にきちと文章を読み込んでいって何が問われているのかを理解できるような言語活動をもっと充実させていかなければいけないだろうと見ています。発表したり、発表を聞いたりというのは国語の力ですが、国語だけではなく、丹念にきめ細かく読んで、問われている問題を受け止めて回答していくという部分は特に克服していかなければいけないという視点に立って、言語活動を重視した授業を通して研究を進めています。

補足すれば、文章を読み込むことが面倒くさいというのは、読み慣れていないから面倒くさいのか、それとも子どもたちの生活環境そのものが活字から離れているのか、そこまで踏み込んでいって、てこ入れしていかないとなかなか学力は伸びないと思います。そういった点で、平均点だけで一喜一憂するのではなくて、誤りの原因がどこにあるかという点に着目して授業改善をしていきたいと考えて実践しています。

#### 部会長

資料を踏まえての学校側の取組を紹介いただきました。今のご説明も含めて何か感想等ありましたらお願いします。

#### 委員

学力は、上がったりがったりということでしょうか。B問題が弱いのかなと思って比べてみると学年によってはそうでもありません。25年度6年生について、24年度、25年度のA問題の正答率を比較してみると、1年で正答率が大きく向上しています。やはり平均点だけでは一概には判断できないと思います。

#### 事務局

学校を検証していくときに、学力調査の数値は区のもの、都のもの、国のものとさまざまなので、そういうデータを比較して分析する際に、今回は学校の正答率が比較できるような数字の並べ方をしてみました。このような資料の作り方についてご意見があればお願いしたいと思います。この部会の設置目的の一つに、この検証の方法を議論することもありますので、そんな要素についてお感じになるところがあればご意見をいただきたいと思います。

#### 部会長

こうしたテスト結果の活用方法は、多分いろいろあると思います。目標値に到達した子どもたちがどのくらいいるのかを見るやり方もありますし、あるいは各学力について得点分布でどの辺に多く固まっているのかを見るやり方もあります。どう点数を見ていくかで見え方が全然違います。到達目標、例えば8割できていれば合格としたときに、合格しているのが何%なのかを見るとすれば、それは1つの目標設定になるので、どこを目標設定すればいいのかという議論も含めて考えることになります。

国や新聞でもそうなのですが、往々にして平均点が出ます。ただ、今ずっと議論していますように、平均点とは何なのかというのがありまして、学力テスト結果をどう活用していけばいいのか考えたいということです。

#### 委員

学力的にちょっと低いお子さんが上がっていくところについては、指導が丁寧に行われているとか、授業前から指導がなされているといった分析が出ているわけですが、平均点だけでは総括的な数字なので、なかなか中身が見えてこないという心配が一方であると思います。

9年間のスパンの中で子どもの学力をいかに改善できるかということが、小中一貫教育の大きな特色だと思います。小学校教員と中学校教員の学力観で、一番違うのは評価観だろうと思っています。非常にそこは重いと思ひまして、指導とどのように結びつけて一体化を図っていくかが課題と考えています。大泉桜学園でいろいろなことをやられている中で、数字が変移しているというのは、やはり実績として求めていくべきだと思います。

#### 事務局

小学校・中学校籍教員の評価観の違いというあたりは、大泉桜学園の研究の取組の状況などに手がかりがあるのではないかと思います。

#### 委員

評価観が違うからこそ、同じ職員室で小学校籍、中学校籍が一緒になって校内研究を行なうという方法をとっています。算数・数学で分科会を作ったり、グルーピングした教員で、9年間の中で児童・生徒にどういう学力をつけるべきかということで研究しています。例えばペーパーテストは、小学校だとだいたい90点から100点とれるような試験問題を作ります。中学校だったらそういう問題は作らないと思います。これは本校でもそうです。

基礎的なところがつまずいたままだと中学校での学力意欲が停滞してしまうし、高校受験を迎えたときに、自分が行きたいと思う進路も獲得できなくなってくるという、生きる上での問題にもなってくるわけです。そういう課題をより早期に解決していかなければいけないという視点で学力観を持って評価していかなければいけないと思います。けれども実際には指導要録の書式をはじめ、いろいろな問題がありますので、本校としても非常に難しい問題だと認識しています。

実際には、一般的に小学校の試験問題で9割方正答すれば勉強できたねという評価と、観点別評価が厳しくなってくる中学校の評価とのギャップは、子どもの目線に立つと相当大きいという認識をしています。そのギャップを埋めるために努力していかなければいけないと思いますが、評価そのものを本格的に研究しようとする、小中一貫教育校としてやっていけるレベルの問題ではありません。世間の常識と闘っていく必要があると思います。

#### 部会長

小学校の評価の基準、中学校の評価の基準があるわけで、小中一貫校にしてもやはりその基準は一定程度そろえていきませんと、高校受験のような場合には他校と同列になるので、単一の学校の中で全部を組み替えるというのはなかなか難しいことです。それでも評価について先生方同士でどうやって子どもたちを9年間一貫して見ていくのか、教科ごとにグループで検討されていることが、この学校の一番の特徴かなと思います。

#### 委員

私の経験では、例えば音楽とか図工を見ていると、どちらかといえば子どもが楽しく音楽に臨むとか、楽しく作品を作るとかいう意欲や関心に教科の重点がいて、その部分に評価が来ているかなという受け止めをしています。中学校では意欲・関心だけではなく、例えば技能的な面などがもっと濃厚に評価として出てきます。評価観が違うことから、評価方法がどうしても違わざるを得ないところがあるので、そこら辺のギャップをどう埋めるかというところを本校では研究しています。

中学校に行って成績のつけ方が全然違ったというのでは話にならないので、そうならないようお互いの授業を見ながらやっていますが、求められているものが少し違っているのかなという感じはします。

#### 委員

難しいですね。意欲・関心と学力とを結びつけて考えたときに、小学校は3段階、中学校は5段階ということで、評価を厳しくしているような感じになるという心配もあります。

小学校6年生を見ていて、中学校へ行ったらどうい成績がつくのかなと考えると、子どもの意識の中で思っていた学力のレベルよりも下がった点数が付く可能性は高いのかなと思います。そういう子どもの意識とのギャップが出てくるところがあると思います。一貫校では、先生方がいろいろな授業をされる中で柔軟に埋めていくことができるわけですが、これが6・3制の場合にはなかなかそこを埋めるのは難しいと思います

#### 委員

中学校の評価のことは、小学校側からはあまりよく分からないというのが正直なところです。確かに小学校では、学習に臨む姿勢だとか意欲だとかを第一に考えていて、意欲を持った子は知識・技能もついてくるとい考え方です。ですから、まず学習に臨む関心や意欲を高めていくことに力を入れていこうということになります。芸術教科では、特にその傾向が強いかなと思います。小学校は3段階の評価で、真ん中が結構広いのですが、中学校へ行ったら5段階になると、自分の成績は真ん中だと思ったら、いや、こっちに寄っていたというようなことはあるだろうと思います。これに関しては大泉桜学園の研究発表に期待しているところです。

#### 委員

教育の専門的な評価についてはよくわかりませんが、ここは学校の評価軸となるポイントではないかと思います。学校評価アンケートの中には、学校のことをどう思うかという評価軸が子どもを通じた目線で表現されています。その中で「よく思う」「思う」という結果は、なかなか個別では評価が難しいかもしれませんが、例えば大泉桜学園の特徴である昔遊びや百人一首をやっている子は国語力が非常に高まっているというクロス集計があると、子どもたちに「じゃあ、ちゃんとやっておきなさいよ」と言えると思います。教育のことでよくわからないのですが、個別の調査が結果的に国語学力調査の中にどう生かされると「そこを一生懸命やりなさいよ」「9年生になるとこんなに成績が上がるのよ」という言い方ができるようになるのでしょうか。例えば自分から進んで参加している子が多ければ、それは評価につながるというのは当然の話だと思うのですが、そのような答えが導き出せるようなアンケートの設問を来年度あたりに1回やってみると、子どもの実像と親の目線がわかっていくという感じがします。教育的な視点は全くわからないのですが、保護者の目線でこのアンケートの集計をクロスさせていくことも必要なのではないかと思います。

部会長

いろいろな調査が学校の中でなされていますが、確かにバラバラに出てきます。それぞれのお子さんが学習にどう考えて取り組んで、テストでどういう結果だったか対応させることはできるのかもしれませんが。技術的にどのようにすればできるか不明ですが、大変貴重なご意見として承ります。

(4) 検証のまとめの構成案について

部会長

次は4番目、検証のまとめの構成案についてになります。事務局から説明をお願いします。

事務局

(説明)

部会長

最終的にどういう形で報告書をまとめるのか、説明がありました。大泉桜学園での取組の概要をまとめた上で、この部会でどのような検証を行ってきたか、その結果はどうか各章でまとめていくという基本的な構成になっています。もう少しこういうことも書いたほうがよいのではないかといったことがありましたら、ぜひご指摘いただきたいと思います。

町会長さんに今回いろいろお聞きして、地域とのつながりということを考える上で、学区が1つになるということはよい意味があったなと思っています。この部会でも話題になったことなので、どこかに入れさせていただきたいと思っています。それから、9年間一貫したことによって、保護者の方と学校とのつながりが非常に密になったことや、1人ひとりのお子さんを見ていく上で、それこそ主任児童委員さんが見ていく上で学校が1つになっていくことの良さが反映される中身になるように構成を考えたいと思います。

内容をどうするかということについては別途ご報告しますので、いろいろご意見をいただくことになると思います。

事務局

基本的には、このような方向でまとめていくということをご了解いただきたいと思います。内容につきましては事務局で整理して、改めて提示をしていきたいと思っています。

(5) その他

ア ねりま小中一貫教育フォーラムについて

部会長

その他のア、練馬区の小中一貫教育フォーラムについて事務局から説明をお願いします。

事務局

(説明)

部会長



フォーラムは400人ぐらいの方が参加されまして、かなり大きな会となりました。さまざまな取組が報告されており、小学校と中学校に分かれているところでも連携して交流したり、いろいろな取組をしていることが分かりました。そういった中で大泉桜学園の報告は写真がかなり豊富に入っており、参加された方からはこの学校の実践の様子がよくわかった、非常に興味深かったという感想がありました。シンポジウムでは、私からこの学校の取組の特徴や成果をこの部会の話し合いに基づいてご報告させていただきました。また、施設一体の学校ばかりではないので、離れた学校で連携するにはどうしたらいいかということについても幾つか話をさせていただきました。

区全体でこういう取組を進めていこうという機運が随分出ているなと感じました。品川などの取組と重なる部分はありますが、特徴として、部活動の交流など、いろいろと子どもたちの自主的な取組ができるようなことをやっていることと、先生方同士の研修をかなりやっているようで、こうした意味でも全体の意識を高めていこうということが分かりました。それはすごく大事なことです。学校の先生は異動されるので、小中一貫・連携の趣旨がお互いに分かっているかないとなかなか継続していきません。そういう意味では地域全体でこういう流れを作っていくことは非常に大事なことです。新しい先生が来られたときに、その先生方がこの学校の趣旨とといいますか、活動の狙いを理解する上では、前の学校でもそういう取組が形は違っててもなされていたということが非常に大事になります。地域全体での取組は非常に大事だと、伺っていて思いました。

#### 委員

大泉桜学園の前に、連携校や研究グループ、実際の小中一貫教育実践校の取組がいろいろ紹介されていましたが、非常に多様なバリエーションがあって、こんなにたくさんできることがあるのだということを提供していただきました。例えばリトルティーチャーといって中学生を先生役に派遣しているところがあったり、人権教育の研修を一緒に実施しているところがあったりと、学校ごとに学校の条件を活用しながら多様なことをやっているのだなと分かりました。小中一貫校は、こんな可能性があるのだなということ、このフォーラムでも勉強させていただきました。

#### 部会長

中学生が先生になって小学生を教えるという取組ですね。そうすると中学生のほうも勉強になる、ちょっとお兄さんになった、お姉さんになったという気持ちがある、そういう取組もありました。いろいろな実践が紹介されることで、自校でもこういうことやってみようかなということが広まりますし、それが実際に大泉桜学園の実践の中でいろいろ参考になったこともあるというご意見もいただきました。それで全体が高まっていくのかなと思いました。

#### イ 中央教育審議会答申について

#### 部会長

次は中央教育審議会答申についての資料です。事務局から紹介をお願いします。

#### 事務局

(説明)

#### 部会長

まだ法律は改正されていませんが、学校教育法に小中一貫教育学校という学校の種類が入れば制度として正式に認められることとなります。今、中等教育学校という学校が都立でかなりありますが、あれも同じような仕組みで何年か前に学校教育法の改正で入ったものです。それと同じような手続がなされれば小中一貫教育学校が正式な学校として認められます。法改正とともに区としてもそういう学校として正式に位置付けるのか、あるいは制度上は小学校、中学校が連携して一貫になっているという学校にするのか、その点は法律改正があつてからの判断になると思います。

今、こういう動きがありますので、先ほど報告書の案を示しましたが、練馬区から報告書が出ましたら、各自治体も小中一貫教育にかなり関心を持っていますので、多分いろいろなところで練馬区の報告書を読むと思います。そういう意味ではこの報告書は、全国的にも非常に大事なものになってくると思います。

#### ウ 平成 27 年度入学案内

#### 部会長

続きまして、大泉桜学園の平成 27 年度の入学案内について、事務局から説明をお願いします。

#### 事務局

(説明)

#### 部会長

今年のバージョンになります。ご感想ございましたらお願いします。

#### 事務局

新入生保護者説明会は新 1 年生・新 7 年生が対象ですが、私の印象としては新 7 年生の保護者の参加が少なくなってきたのではないかと考えています。その理由はさまざまあると思います。児童が大泉桜学園に在籍している保護者の方は改めて話を聞かなくても大丈夫ということかなと思いますが、そのあたりについて情報をお持ちであれば伺いたいと思っています。また、学校としては、どのようにお感じになっているのか、土曜日の学校公開の参加状況などでこういう傾向があったのか、そんな話などがいただけたらと思います。

#### 部会長

7 年生の保護者の方はそのまま上がるので、よく分かっていることばかりだということがあるかもしれませんね。

#### 委員

14 日に開催された保護者会に出席しました。体育館で、1 年生と 7 年生の保護者が合同で校長先生のお話を伺いました。冒頭に校長先生から、文科省の予算を使って学校の検証を行なっていることや、全国的に注目をされている学校であるという説明がありました。その後、学校の特徴等についての説明がありました。こういった検証会が行なわれていることは知らない方もいらっしゃるのでは、皆さん非常に食い入って聞いていました。その後、各学年に分かれて説明会がありました。私は今度 7 年生になる子どもの保護者ですが、7 年生はこの部屋に集ま

り、テーブルを目いっぱい使って、後ろにもいすを並べて座るぐらいな感じで参加されていました。

内容的には、副校長先生から7年生に向けた学校の生活の話、生活指導主任の先生からは学校での挨拶や服装など、一般的中学生としての在り方についての説明がありました。改めて聞いてみて、小学校では意外と自由にやってきたものが、中学校では例えば服装について「髪の毛が伸びたらここから結わくんだよ」とか、スカートの丈だとかを改めて聞いて「あ、そうだったのか」と認識するいい機会になりました。また、部活動も小学校で知っていたような気もしていたのですが、改めて入部のことなどを聞いてみると非常に勉強になりました。そういう意味で、それぞれのパートに分かれた専門的な説明もしていただけたと思っています。

出席した保護者の方も同じ感想を持っておられ、改めて聞いてみると「あ、そうだよ」ということがありました。小中一貫校ではありますが、中学生になるという意識はやはり保護者の中にもあって、中学校へ上がる気構えとか、何が変わるのか、制服はどうやって着たらいいのか、そろえないといけないものは何か、学校の生活がどう変わっていくのかということについて、これまでも見ているようで、実はよく分かっていなかったということもあり、改めて副校長先生から説明いただいたことは、非常に良かったのではないかと思います。

例えば私立への進学がもう決まっている方だとか、ほかの学校を希望されている方の姿はありませんでしたが、保護者は、6年生から7年生に、小学校から中学校に上がるという意識で出席しているので、新たな進学という気持ちでちゃんと聞かなければいけないという意識を持っていたと思います。分かっていると思いつつ軽い気持ちで出席しましたが、改めて聞いてみると「あ、そうだよ」ということがたくさんあったので、小中一貫校ということもありますが、1つの区切りをもって聞いてきました。

ほかの学校からいらっしゃっている保護者も見受けられ、そういう方は皆さん少し不安な顔ものぞかせたりしていました。いきなり「一緒に頑張りましょうね」と言うのも何か変ですので、お声かけはしませんでした。慣れている顔と、やや不安に思ってこれからどうなっていくのかなという顔が混在していましたが、説明の後には、皆さん安心した顔でお帰りになった印象です。

#### 部会長

大泉桜学園に7年生から入っていらっしゃる保護者の方にとっては、初めて聞く内容ばかりですね。

#### 委員

私は新1年生の保護者にお話を伺ったのですが、小中一貫校は、自分たちが子どもの時にはなかったことで、全く初めてなので、学校の様子があまりにも漠然としていてわからなかった、これからどうなるのか不安があるという話でした。新1年生に入るときに制服を推奨されているということで、一番心配されていたのが制服の件で、値段も上下合わせると結構な金額になるということですが、子どもはだんだん大きくなってしまいますので、それを1年生のときから購入してもいいものかどうか悩んでいる感じで、「新1年生の制服の着用率はどのなのでしょうね」と聞かれました。そこで、ここ2年ぐらい入学式で見ていると、女の子は意外と着ていて、男の子のほうは少ないという印象があったという話をしました。家族の事情もありますし、生活保護の家庭は制服代が出るのでしょうが、やはり新しく買うとなるとちょっと心配だという話がありました。例えば学校として何年か後には制服にしたいという方針が決まっているのだったら買おうという気にもなるのでしょうが、例えば七五三の時に使ったものでいいのか

しらと悩んでいらっしゃる保護者が多いというお話でした。

部会長

子どもはどんどん大きくなっていきますので、制服はどの時点でそろえたら一番いいかなって考えますね。それは本当にそうだと思います。

#### 4 事務連絡

部会長

今日ご報告ありましたように、来年度は報告書の作成に向けて作業を進めてまいりますので、いろいろご意見いただくことが多いかと思いますが、何とぞよろしくお願いいたします。

以上で検証部会を終了したいと思います。本日はどうもありがとうございました。

(閉 会)